

# 千刈狸の呟き

## 「禁煙始末記」

秋も深まり、赤々とした山肌がなごましてくれ  
るような気配である。

先日、東京の実家に寄った際、枕元で聞く虫の  
声に思わず秋なんだなあと季節の移ろいを感じた  
ものだが、自然の豊かな秋田と日頃、都会の車内  
広告などに銘打っている当の秋田にいる、わが家  
の庭先では虫の声などつゆ知れず別の意味でわび  
しさを感じてしまった。

先ごろ、以前に勤務していた病院の同僚であっ  
た松田 淳先生が突然お亡くなりになった。わが  
耳を疑うほどの早逝である。彼が禁煙運動にアグ  
レッシブに取り組み、リーダーであったことは周  
知のことである。当医師会の月例会でも講演をし  
ていただき、その日のニュース番組に放映された  
ことも記憶に新しい。タバコの害を説き、喫煙者  
よりも伏流煙を吸う受動喫煙の方が、はるかに害  
が大きいといったことが記憶に残っている。彼の  
意思が引き継がれ、さらに禁煙運動が徹底化して  
いくことを祈る。

先月の職域代表者会議で職員玄関ならびに正面  
玄関先に設置されていた戸外喫煙ボックスの撤去  
が提案され、10月の末日現在、わが病院では院内・  
敷地内を含め完全に喫煙スペースは無くなりタバ  
コフリーの状態になっている。本家本元の日本医  
師会館では、すでに全館ならびに敷地内禁煙が実  
施されており、この度のことが遅きに失した感  
は否めない。

これまで職員玄関先につながる廊下を歩くた  
びにタバコの臭いがたちこめていたが、それが無  
くなり何の味も香りもしない室内の空気がおいしく  
清しく感じるのは、ふだん如何ほどのタバコ汚  
染があったか如実に語るものであり感覚が麻痺し  
ていたのであろう。

ただ、気になるのは喫煙者の分煙化、巻き返し  
の動きである。いちおう喫煙者の意見提案を聞く  
ということで会議は終えたが、その後の彼らのア  
ンケートでは吸う権利の主張、隠れ喫煙による火  
災の危険等は述べてはいるが、これを機会に禁煙  
を決意するとか、自分の健康への配慮がないこと  
が気になり、一抹の寂しさをおぼえた。確かに吸  
いたいという気持ちを抑えることは難しい。吸う  
ことイコール個人の自由と彼らのいうことも解ら  
ぬ訳ではないが、自らがニコチン中毒者としてい  
っていることはいわれもない。人間はマスターペ  
ーションを覚えたサルではないはずである。この機  
会にタバコについて考えてみてはどうだろうか。

今年の9月8日の読売新聞、第一面「地球を読  
む」のコラム欄に国立がんセンター名誉総長 垣  
添忠生氏が「たばこの害」と題して論説している。  
タバコ観をとらえるにはいい資料かと思う。日本  
人の死亡原因に大きくタバコが関与していること、  
それが科学的に実証されていること、2003年WH  
Oたばこ規制条約に日本政府は批准し禁煙キャン  
ペーンが義務付けられている等々いわれているが  
日本はまだ規制に甘く、何よりもまして健康  
被害への大きさ、甚大さを強調している。自ら  
の命を守るのは自分であり、まして家族を持つも  
のにとっては自分だけの命ではないはずである。  
あらためてタバコに対しての考えを見直し世の中  
は規制の方向に向かっていることを実感しなくて  
はならない。

タバコ規制の進んだアメリカは売れなくなった  
タバコを発展途上国ならびに日本へ流している。  
要はタバコに対しての意識が低い結果が招いたこ  
とだと思うが、何か馬鹿にされているとは思いま  
せんか.....。

(ケサランパサラン)